

宇都宮市立宝木小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・対話や協働的な学びを取り入れた授業実践に努め、児童が積極的に考えを伝え合い、ともに学び会える学級集団の育成を目指す。導入や発問、ICTを活用するなど学習活動を工夫し、多様な方法で学び合いをしていく。	・「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」や「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」の設問に対する肯定的割合は市の平均を下回っている。しかし、昨年度の状況と比較すると各学年とも市の平均とのポイント差が減ってきている。
・家庭学習の習慣化・継続化への手立てや取組方の提示	・学習がんばり週間を年2回設定し、児童と職員そして家庭とで情報を共有・連携して家庭学習の習慣化を目指す。また、「陽西地域学校園の学習の手引き」の活用や、自主学習コンテストを開催するなどして家庭学習の質の向上に努める。	・「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している。」や「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の設問の肯定的割合が今年度市の平均を上回る学年が増えてきた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・話し合いに自分から進んで参加したり、話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることが難しいと感じている児童は多い。対話を取り入れた学びについて、「宇都宮モデル」をもとに授業改善を進めているが、今後も教師自身が児童同士の発言を結び付けたり深めたりする授業コーディネート力をさらに向上していく必要がある。また、各教科の授業の中で、根拠や理由を考えさせたり、書かせたりすることで、深い学びに繋がるように授業改善を継続していきたい。

・「学習して分かったり・できるようになったりすることはうれしい」と感じている児童の割合は高い。基礎基本の確実な定着と、わかる・できる体験を積み重ね、学ぶ楽しさを実感させることで自己肯定感を育てていきたい。

・家庭学習に関しては一定の成果がある。今後も児童の基礎基本の定着を図る宿題と計画を立てる自主学習との内容を教師も吟味し、主体的に学ぼうとする児童を育てていきたい。